

1. 熊本地域公共交通網形成計画について

網形成計画とは・・・「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするため、国が定める基本方針に基づき、交通事業者等との協議の上で、地方公共団体が法定協議会で意見を聞きながら策定するもの。

熊本地域公共交通網形成計画(抜粋)

地域公共交通網の将来像

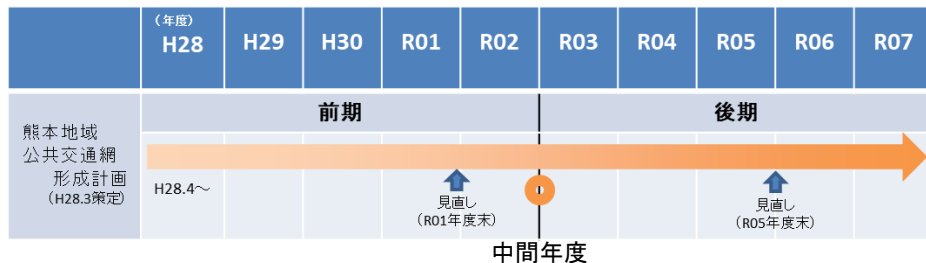


施策展開の基本的な考え方

- (1) 基幹公共交通の機能強化
骨格となる基幹公共交通軸の形成
- (2) バス路線網の再編
基幹公共交通軸と共に一体的に機能するバス網の形成
- (3) コミュニティ交通の導入
ネットワークに有機的に接続するコミュニティ交通の形成
- (4) 公共交通の利用促進
利用環境の改善と住民等への意識啓発
- (5) メイン・サブターミナルの整備
広域交通拠点の形成

2. 計画の期間について

計画の期間は10か年であり、熊本市第7次総合計画等の見直し時期にあわせ、本年度見直しをする予定にあった。



3. 見直しの考え方について

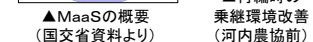
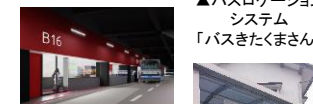
(1) 現状の反映等について

- ① 公共交通の現状
 - ・公共交通利用者数
 - ・成果指標の達成状況、運行状況の変化 等
- ② 網形成計画事業の取組状況
 - ・バスロケーションシステム整備
 - ・メインターミナル(桜町バスターミナル)整備
 - ・植木、小島方面のバス路線再編 等
- ③ 新たな取り組み
 - ・Aiの活用やMaaSを見据えた取組
 - ・公共交通ランドデザインの改定
 - ・市電延伸の検討 等



(2) 新たな動きの反映

- ① バス路線網再編の方向性
 - ・バス交通のあり方検討会の検討成果に基づく取組
- ② 国の法改正
 - ・乗合バス事業者の共同経営等の独占禁止法の適用除外を認める法改正
 - ・「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正

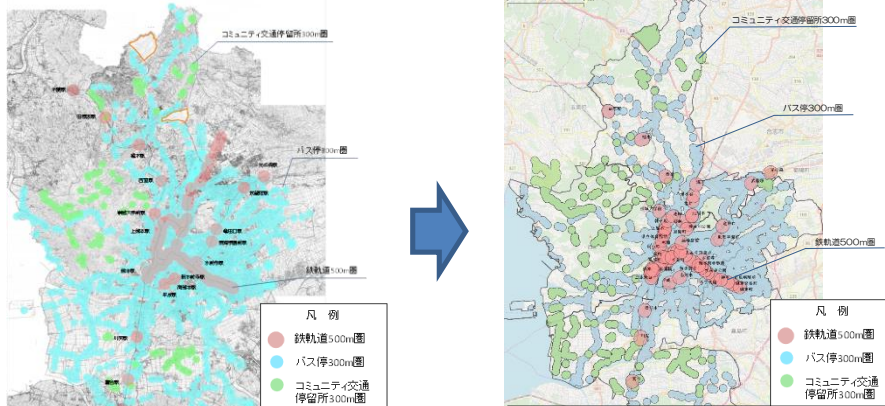


予定していた現状の反映等に加え、新たな動きも併せて反映するため、以下のスケジュール(案)にて、中間年度である来年度に計画の見直しを行う。

スケジュール(案)

	R01年度		R02年度		
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
協議会	● スケジュール確認	● 見直し方針	● 適宜開催	● 見直し案承認	● 見直し案承認
部会	● 成果・事業の報告	● 素案・協議	● 部会承認	● 計画見直し	

1. 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率



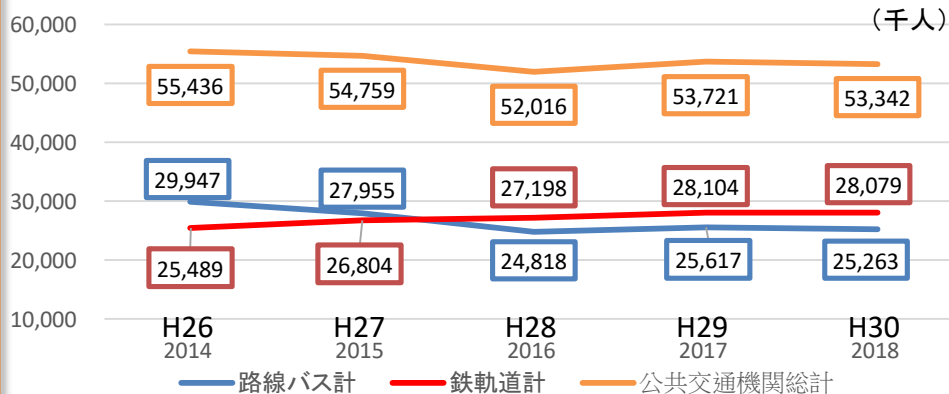
人口…平成22年の国勢調査結果
公共交通…平成27年4月の状況

人口…平成27年の国勢調査結果
公共交通…令和元年10月の状況

基準値 ＜2015年度＞	実績値 ＜2019年度＞	目標値 ＜2020年度＞	目標値 ＜2025年度＞
83.9%	85.6%	83.9%	83.9%

●バス路線の改廃によるバス停300m圏の変化があったが、居住状況の変化やコミュニティ交通の導入により、人口カバー率は微増

2. 公共交通機関の年間利用者数



路線バスの利用者数 H26: 29,947 (千人) → H30: 25,263 (千人)
 鉄軌道の利用者数 H26: 25,489 (千人) → H30: 28,079 (千人)
 (参考) タクシーの利用者 H26: 12,166 (千人) → H30: 11,187 (千人) (熊本交通圏)

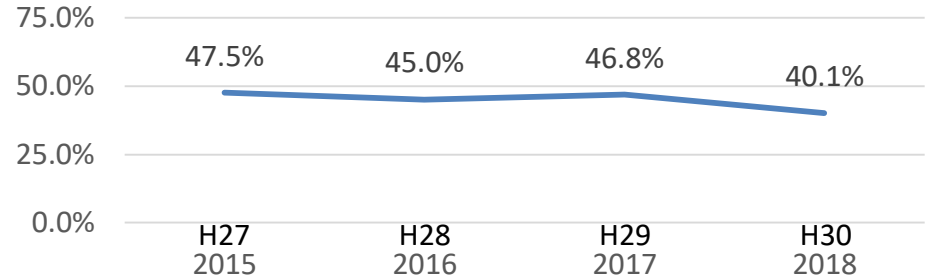
基準値 ＜2015年度＞ (2014年実績)	実績値 ＜2019年度＞ (2018年実績)	目標値 ＜2020年度＞ (2019年実績)	目標値 ＜2025年度＞ (2024年実績)
55,436千人	53,342千人	55,269千人	54,708千人

* 公共交通利用者数は前年の利用者数を当年の実績値としている

- 鉄軌道は増加傾向にあるが、路線バスは依然として減少している
- 乗務員不足による減便(2018年度 路線バスの実車走行キロ: 2015年比83%)等もあり、路線バス利用者が減少し、公共交通全体の利用者数も減少

3. 公共交通機関を利用する市民の割合

熊本市総合計画における市民アンケートにおいて、「目的地に行くときに、公共交通機関(電車・バス)を使いますか」という問いに対して、「よく利用している(週に1回以上)」、「時々利用している(月に1回以上)」と回答した市民の割合



基準値 ＜2015年度＞	実績値 ＜2018年度＞	目標値 ＜2020年度＞	目標値 ＜2025年度＞
47.5%	40.1%*	48.8%	50.0%

*2019年度 集計中

- 「公共交通機関を利用する」と回答した人はほぼ横ばいで推移
 (H30年度調査より、アンケートの選択肢が「よく利用している」→「週に1回以上」、「時々利用している」→「月に1回以上」、「ほとんど利用していない」→「年に1回以上」、「全く利用していない」→「全く使用しない」と変更)

- 公共交通の人口カバー率は目標値を達成する見込み
- 年間利用者数は減少が続いている
- 公共交通機関の利用意向の割合はほぼ横ばい
- 公共交通事業者と連携し、より一層、公共交通の利便性向上、特にバス路線網の再編や利用促進に取り組む必要がある

熊本地域公共交通網形成計画（事業の実施状況について）

参考2

事業名称	事業概要	スケジュール		前期実施状況	後期取組内容	見直しのポイント
		前期 H28年度～R2年度	後期 R3年度～R7年度			
事業（1） ゾーンシステムの導入	各種交通手段を幹線と支線に設定するゾーンシステムの導入	検討・実施		・植木、小島方面において、利用実態を踏まえた再編を令和元年10月に実施	・これまでの実施状況を整理 ・他の方面について検討	・バス交通のあり方検討会での検討成果に基づく取組の反映 ・乗換負担の軽減策 ・沿線自治体、地域住民などの合意形成
事業（2） 乗換拠点の整備	ゾーンシステム乗換拠点や地域拠点乗換拠点、鉄道駅乗換拠点等における待合環境等の整備	検討・実施		・植木、小島方面の再編に合わせた整備の実施 ・その他バス停の環境改善（実施中） ・植木における駅前広場整備（実施中）	・今後の再編にあわせて環境整備を検討 ・既存バス停の環境改善の検討	・バス交通のあり方検討会での検討成果に基づく取組の反映
事業（3） 快速バス等の導入	ゾーンシステム乗換拠点等からの快速バス等の導入検討	検討・実施			・ニーズや運行内容の検討 ・既存路線の利活用の検討	・バス交通のあり方検討会での検討成果に基づく取組の反映 ・定時性、速達性の確保
事業（4-1） 公共車両等の走行環境の改善	バス専用（優先）レーンや公共車両優先システム（PTPS）の導入拡大検討	拡大検討		・交差点の改良、バスベ이의整備を道路改良に併せて実施	・交通管理者との協議 ・路線の選定・実施	・導入する路線の選定 ・自動車交通への影響
事業（4-2） 公共車両等の走行環境の改善	ボトルネック交差点の改良、バスベ이의整備	拡大実施			・道路整備プログラムに沿った事業の実施	
事業（5） バス・鉄軌道等の輸送力の向上	大量輸送車両の導入や需要に応じた増便等による輸送力の向上	拡大実施		・新水前寺発の臨時便の運行 ・輸送力の高い連接車両の復活運行	・車両更新計画の策定と実施（市電） ・連接バス導入の研究（BRT）	・BRTの導入可能性の検討
事業（6） メイン・サブターミナルの整備	桜町再開発事業に伴う交通センターバスターミナル（メインターミナル）の改築および熊本駅東口駅前広場（サブターミナル）の整備	実施中		・桜町再開発事業に伴い、バスターミナルを再整備 ・熊本駅東口駅前広場をサブターミナルとして整備中		・メイン、サブターミナルを活用した路線の検討
事業（7） 環状線の導入	各基幹公共交通軸を補完する環状線の導入検討	検討・実施			・既存の環状線の利用状況に応じた見直し ・新たな環状線の導入の検討	
事業（8） 都市バスを中心としたバス路線網の効率化	都市バスを中心としたバス路線網の効率化・再構築、一元的なバスサービスの提供	検討・実施		・熊本におけるバス交通のあり方検討会にて検討	・共同経営準備室（仮称）の取組によるバス路線網再編の検討、実施	・バス交通のあり方検討会での検討成果に基づく取組の反映
事業（9） 競合路線の改善	競合路線におけるダイヤ改善、競合路線の解消	拡大検討・実施		・平成31年4月、2方面のダイヤ改善を実施	・市、事業者間の協議による見直し、改善の検討、実施	・バス交通のあり方検討会での検討成果に基づく取組の反映
事業（10） 統一時刻表・共同路線図の導入	競合路線のバス停における時刻表及び路線図の統一化	拡大実施		・競合ダイヤの改善を行なった路線で統一時刻表を拡充 ・桜町B T開業に併せ、共同路線図を各バス停に掲示	・引き続き、競合路線の改善にあわせて統一時刻表の拡充を検討 ・スマホなどを活用した情報提供の検討	・スマホなどICTを活用した情報提供
事業（11） バスロケーションシステムの導入	位置情報システム（GPS）を活用したバスロケーションシステムの導入	検討・実施		・バスロケーションシステム導入（H31.4）	・バスロケーションシステムの周知 ・バスロケ導入に合わせてオープン化されたデータの活用	
事業（12） 市電ロケーションシステムの導入	位置情報システム（GPS）を活用した市電ロケーションシステムの導入	検討・実施		・市電ロケーションシステム導入（H29.3）	・市電ロケーションシステムの周知 ・市電ロケーションシステム電停モニターの増設	
事業（13） バリアフリー対応車両の充実	ノンステップバスや超低床電車（LRV）の導入	拡大実施		・ノンステップバスや超低床電車の導入を促進（熊本市内の路線バスの低床車両率 H28 35.5% → R01 52.8%）	・引き続き、ノンステップバスや超低床電車の導入を促進 ・車両更新計画の策定と実施（市電）	
事業（14） 電停のバリアフリー化（電停改良）	電停ホームのバリアフリー化（かさ上げ、拡幅等）	拡大実施		・通町筋、河原町電停の改良を実施 ・辛島町、動植物園入口電停の改良（実施中）	・引き続きP & R等の利用を促進	
事業（15） パークアンドライド（P&R）、キスアンドライド（K&R）、サイクルアンドライド（C&R）の整備	パークアンドライド（P&R）、キスアンドライド（K&R）、サイクルアンドライド（C&R）の整備	拡大検討・実施		・P & Rの利用を促進 ・鉄軌道駅における駐輪場整備（川尻、上熊本、段山電停、熊本、田崎橋電停、植木）（一部実施中）		
事業（16） 公共交通の利用促進	バス事業者・関係機関等と連携した公共交通利用促進事業の実施・拡大	拡大検討・実施		・公共交通利用促進キャンペーンや小学生向けの出前講座を実施 ・バス事業者と連携したモビリティマネジメントの実施 ・バス待ち処の設置（商業施設を活用した待合環境の改善） ・バスの案内番号の英数化を実施	・引き続き利用促進を実施 ・バス待ち処の拡大	・共通定期券、乗継割引の検討 ・バス待ち処の反映
事業（17） 公共交通空白地域等へのコミュニティ交通の導入	公共交通空白地域等にデマンド型の乗合タクシー等を導入	拡大実施		・空白・不便地域対応乗合タクシーの導入（中緑乗合タクシー、弓削乗合タクシーなど）	・引き続き空白地域、不便地域への対応を実施	
事業（18） 新たなコミュニティ交通の導入	地域の特性や実情に応じた新たなコミュニティ交通の導入検討	検討・実施		・新たなコミュニティ交通の導入について検討	・A i を活用したデマンドタクシーなど新技術を活用した新たなモビリティの導入を検討	・公共交通としてのタクシーの更なる活用 ・A i など新技術の活用

* その他新事業として、熊本県内バス・電車無料の日の実施結果を踏まえた利用促進などを検討